

【成果を出す組織を作るマネジメント】シリーズ

先手を打つことで軽減できる “経営” 問題

強い組織、強い現場を作るための、やさしい現代マネジメント！

【自然災害へのビジネス上の備え】

昨今多発する自然災害は、本当に悲惨なケースが少なくありません。ただ、事業者としては、自然災害で“自社業務”が止まってしまわないよう配慮することは欠かせないでしょう。

それでも、操業の一時停止に陥ることがあります。特に、事前に“非常時に備える仕組み”を作っていたような場合、その崩壊がパニックを増大し、余計な混乱を招くこともあり得るのです。

【事前の安心が打ち砕かれる時】

たとえば、災害時の停電に備えて、もう一つのバックアップ事務所を用意していたA社では、その安心感を武器に顧客開拓を進めていました。

ところが、想定以上の災害で、正事務所も副事務所も、両方とも停電してしまったのです。

【実際に機能し得る準備が必要】

しかも、両事務所の同時停電を体験する中で、その経営者は『仮にバックアップ事務所が停電しなかったとしても、果たして期待通りのバックアップ機能を発揮したでしょうか』と、考え込んでしまったと言われるのです。

【バックアップよりも重要なもの？】

バックアップが“ある”か“ない”かではなく、重要なのは、それを“どう活用するか”という具体的想定と活用訓練だったかも知れません。

ところが、その経営者は『“バックアップ”云々よりも、もっと重要なことに気付いた』とも言われるのです。その“重要事”とは、一口に言うなら、関係者への“事前告知”です。

【的を射た事前告知に不可欠なのは？】

もちろん、的確な事前告知を行うには正確な情報と見識が不可欠になります。しかし的を射た告知で、関係先の準備や覚悟が定まれば、深刻な問題回避の可能性が高まり得ます。しかも、関係先からの“信用”も大きく変わって来るのです。

【マネジメント・レポートを購読しませんか？】

この“事前対応”の重要性は、社外対応のみならず“社内対応”上も非常に重要でしょう。特に昨今の“従業員意識の変化”の中では、後手に回る時の危険を無視できないからです。詳しくは、事例レポートでご確認下さい。有料定期購読をご一報いただければ、レポートを差し上げます。



次々に起こる“自然災害”が、直接間接に、自社サービスの提供に障害をもたらすことがあります。被災は不可抗力だとしても、その“対応”如何で、企業の“信用”が左右されるケースも、ないとは言えません。

それは“自然災害”のみならず、“大きな制度変更”等への対応にも言えそうなのです。事前対応を怠ったり、事後対応で的を外してしまったりすると、経営陣の社内信用が、大きく損なわれる懸念が出るからです。

では、そんなマイナスの事態を回避する方法はあるのでしょうか…。

中堅中小企業の皆様に、現代的な“人”マネジメントの視点から、重要なニュースやノウハウをお届けする月例『経営さぷりめんとニュース』に、ご意見やご感想をお寄せください！

行政書士・社会保険労務士へんみ事務所

TEL : 022-292-2351

FAX : 022-292-2352

URL : <http://www.henmi-adm.jp/>